

私

『源氏物語』と初めて出会ったのは中学生のとき。中学生向けのダイジェスト版のようなもので読んだのですが、とにかく「すてきななあ」という印象で、いつかちゃんと読みたいと思いましたが。短大に入ってから、円地文子の訳本を夢中になって読みました。そのとき、周りの友達の話のほとんどが『源氏物語』の名前は知っていても実際に読んだことがないということを知り、こんなおもしろいものを読まないなんて、もったいないなと思っただけです。そこで、ずっと後になって編集者や新しい漫画の企画を練っているとき、ふっと心に引つかかっていた『源氏物語』が浮かんだのです。そうして『あさきゆめみし』は生まれました。

漫画のメリットは、ひと目でたくさん情報や伝えられるところにあると思います。私はできるだけ情報量の多い絵を描きたいと思っていましたし、『あさきゆめみし』でも着物の柄や建物、調度品などを描くにあたり、京都まで足をのびして博物館や寺社を廻るなど綿密な下調べをしました。とかく「わからない」「難しい」と言われる『源氏物語』ですが、漫画という表現手段のおかげで『あさきゆめみし』はわかりやすくなっている。

その一方で、絵で見せてしまうためにイメージが限定されて想像力が働くのを阻むというデメリットを、漫画は同時に持ち合わせています。たとえば、実際に原作を読むと、様々な登場人物の「顔」が自分なりに浮かんでくるものです。でも、漫画を読むことによって光源氏の顔や紫の上の顔が漫画の姿そのままに、また読者のすべてに同じ顔としてインプットされてしまう。あさきゆめみしは原作にかなり忠実につくっていますが、やはり少女漫画という視点で取り上げている部分も多いし、私個人の解釈も入っています。

最近はず備校の古文の副読本に使われるなど受験の参考書としても手にとっていたように思うのですが、私は『源氏物語』を讀むとつかかりとして、この作品をどうやって読んだらいいかと思っているんです。『あさきゆめみし』を讀んで『源氏物語』を讀んだ気になってしまふのは、とてももったいないですから。

漫画はあくまでも商業ベース上のものなので、読者に関心を持ってもらえなければ、連載も打ち切られてしまいます。『あさきゆめみし』も連載開始当初は、はたして読者に受け容れてもらえるかどうか、編集者にも私にもわかりませんでした。ただ、当時は少女漫画ブームを経て、読者の漫画を読む力量が高まっていた時期だったんです。それと『源氏物語』という作品そのものが持つおもしろさが、読者に受け容れられたのではないかと思っています。

私

には今、四歳の娘がいて、育児と仕事に追われて毎日を通り過ぎていきます。結婚して子どもを産んだことで、人生観はがらりと変わりましたね。今描いている作品は男性のベビーシッターの話なんですけど、これなども子どもがいなかったら描けなかつたでしょうし、描けなかつたとも思いますね。

もし、娘が大きくなって漫画を読むようになったら、私はその漫画の内容をチェックします。子どもを一人で静かにさせておくため、あつちを向かせておくためだけに、安易に漫画を子どもに与える親が多いことがとても気になりますね。逆に、漫画だからという理由でいっさい読ませない親もいますが、そうすると子どもは隠れて読むようになってしまふし、また、すばらしい漫画の作品を見逃す結果になってしまふと思います。子どもが漫画を読むの

今月のゲスト

大和和紀さん

「親もきちんと読んで、いい作品と一緒に選んでいく必要があるのではないのでしょうか。そして「これについてどう思う?」「こういう恋愛のあり方はまちがっているんじゃないかな」などと内容について親子で話し合い、考える機会を持つてみる。本当におもしろい漫画、いい漫画というものは、大人が読んでも子どもが読んでもおもしろいものだと思うんです。漫画世代が親になった今、親子で新しい漫画の読み方ができる気がしますね。」

(取材・構成/編集係)

Cross Road

漫画世代が親になった今、子どもが読む漫画を親も一緒に読んでみて親子でいい作品を選んでいくという新しい漫画の読み方ができると思うんです。

やまと・わき 大和和紀さん「どろ心にヒット作をらさんが通る」など多数。78年の連載開始。『源氏物語』を漫画化した『あさきゆめみし』は79年の連載開始。『源氏物語』を漫画というスタイルでわかりやすく世に紹介した功績が高く評価された。講談社漫画賞、国際ニューメディア(カナダ)優秀賞など、受賞も多数。

